

原著＜論文＞

幼稚園草創期から昭和初期における保育者養成に関する検討
—柳城保姆養成所の教育内容とその周辺—

青山 佳代^{*1}

1. はじめに

日本の幼児教育制度は、1872（明治5）年の学制が発点と考えられている。1876（明治9）年には日本で最初の幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園は東京湯島に開設された。この幼稚園は、当時の文部大輔であった田中不二麿と女子師範学校の校長であった中村正直らの強力な意思によって設置された。同幼稚園は、それ以降に日本各地で設置される幼稚園のモデル（＝模範）として活用されていった。施設設備も、保育内容も、そして保育者の資質等においてでもそうであった。幼稚園を開設するためには、東京女子師範学校に直接研修を受けに行くか、または「保姆」の派遣を依頼する形で開設されていった。1879（明治12）年には大阪府立模範学校、県立鹿児島幼稚園が、1880（明治13）年には大阪に愛珠幼稚園が開設された。

他方、1880（明治13）年には、全国5番目の幼稚園として、キリスト教系の桜井女学校附属幼稚園が創設された。1884（明治17）年には、桜井女学校幼稚保育科が創設された。1889（明治22）年になると、神戸にA.L.ハウが頌栄保姆伝習所を開設した。

伊沢修二は、このような状況に対して「高等師範学校の幼稚園を基として、さうして夫れに何分の改良、或いは発達をしたところのもの」と「神戸のミツスハオー嬢の主張するところの亜米利加で最も進歩したところのシカゴ式と称えるところのもの」と分類している¹。

すなわち、近代日本の保育者養成には、官立の東京女子師範学校とその流れを汲む養成と、宣教師によるキリスト教系保育者養成機関における養成の二系統からなると考えられる。

湯川（2019）²によれば、キリスト教主義の保育者養成機関の果たした役割は大きく、日本の保育者養成を主導し、質量ともに充実した養成を行なっていたとも言われている。キリスト教主義の保育者養成機関の本格的な歴史的研究としては、永井（2016）による研究

^{*1} 名古屋柳城女子大学

(『近代日本保育者養成史の研究－キリスト教系保姆養成機関を中心に－』)がある。しかしながら、この研究はキリスト教系保育者養成校の中から、主としてアメリカプロテスタントの宣教師による桜井女学校幼稚保育科など3校を取り上げるに留まっている。

そこで本稿では、近代日本における保育者養成の創始期から昭和前期の様相を、これまでの研究ではあまり注目されてこなかったキリスト教系保育者養成機関である柳城保姆養成所の保育者養成の実態と特質に注目して分析してみたい。なお、本稿では固有名詞に対して「保姆」の呼称を用い、それ以外は保育者と記述している。

2. わが国における保育者養成の嚆矢

わが国最初の保育者養成機関は、1878（明治11）年6月に設置された東京女子師範学校保姆練習科である。入学資格は年齢20歳から40歳までの女子であった。

しかし、開設当初は「保姆ノ養成ハ、保姆練習科設置ノ件裁可ヲ得タルヲ以テ、生徒ヲ募集スルニ、入学ヲ請フモノ僅々一兩名ニ過キスシテ、次学年ノ始メヨリ實際其業ヲ開キ難シ」と記された。つまり、志願者が集まらなかったのである。その理由として試験のレベルが高すぎることに、保育者の有用性が一般に認知されていなかったことが挙げられている。そのため、1879（明治12）年に、試験のレベルを下げ、学費を給与として再募集した。その結果給費生として5名が、加えて自費生として6名が合格し、同校保姆養成科における保育者養成が実施されることとなった。修業年数は1年間で、9月から始まる2学期制が採用された。

以下に、同校保姆養成科の学科目「学科及其程度」を示す。

表1 東京女子師範学校保姆練習科学科目「学科及其程度」

学科	前期	一週内 ノ時数	学科	後期	一週内 ノ時数
教育論	其大意ヲ口授シ其要義ハ生徒ヲシテ手記セシム	二	修身学	其大意ヲ口授シ其要義ハ生徒ヲシテ手記セシム	二
物理学 並動植物学	其大意ヲ口授シ或ハ実験ヲ以テ之ヲ示シ以テ生徒ノ概略ヲ了解セシム	二	人体論	口授或ハ問答法ニヨツテ人体解剖ノ大意生理ノ概則及養生ノ法ヲ理解セシム	二
幾何学	平面幾何ノ大意ヲ口授シ或ハ之ヲ問答ス	一	幾何学	立体幾何ノ大意ヲ口授シ或ハ之ヲ問答ス	一
図画初歩	幼稚園法ノ縦横線ヨリ始メ	一	古今小説	幼稚園適当ノ小説ヲ記憶セ	一

	略諸物体ノ形状ヲ知ラシム			シメ且ツ其ノ話法ヲ練習シセム	
園制大意	幼稚園記及其附録ニツイテ口授ス	一	布列別伝	当分原書ニツイテ口授シ生徒ヲシテ手記セシム	一
二十恩物大意	当分原書ニツイテ口授シ生徒ヲシテ手記セシム	一	二十恩物大意	授業法前同様	一
音楽	唱歌、遊戯ヲ授ク	二	音楽	唱歌、遊戯ヲ授ク	二
恩物用法	二十恩物ノ中前十号ノ用法ヲ授ケ殊ニ製作品ノ貯蔵すべきモノアルトキハ検査ノ上遊覧室ニ陳列スヘシ	六	恩物用法	授業法ハ前期ト同シ	六
体操		一	体操		一
実地保育		六	実地保育		六

上記の表を見ると、前期には「教育論」「物理学並動植物学」「幾何学」「図画ノ初歩」「園制大意」「二十恩物大意」「音楽」「恩物用法」「体操」「実地保育」が、後期には「修身学」「人体論」「幾何学」「古今小説」「布列別伝」「二十恩物大意」「音楽」「恩物用法」「体操」「実地保育」の各科目が配置されている。「二十恩物大意」「音楽」「恩物用法」「体操」「実地保育」は通年科目である。保育者として幾何学や博物学、物理学を学ぶ理由としては、幾何学は恩物教育を行うために必須のものであり（傍点筆者）、博物学や物理学は子どもの様々な質問に誤りなく答えるために必要となると考えられたからであった³。さらに「恩物用法」と「実地保育」に多くの時間が割かれていることもわかる。恩物に関しては「大意」と「用法」の科目が存在し、保育者養成において恩物について重視されていたことがわかる。

けれども、東京女子師範学校保姆練習科は、1880年に東京女子師範学校の規則が開催されると、第1回卒業生を輩出しただけで廃止されてしまった。水野浩志（1983）は、「この練習科を廃止し、新たに同校本科生に、幼児保育法と保育実習を履修させることにより、本科生は誰でも保育者になることができるという規則と改正を行なったのである⁴。このことはその後、小学校教員養成を主たる目的とする女子師範学校が、幼児教育法（＝「幼稚園保育術」）1科目と、簡単な保育実習（＝「実地保育」）を履修させることにより、幼稚園保母の養成を副次的に行うことができるという伝統をつくりあげてしまったのである」と、評した。現実においても保育者の社会的地位も待遇も低かった時代に、小学校教員の地位を捨ててまで保育者になるものは、篤志家をのぞいて極めて少なかった。従って、幼稚園

の普及につれて保育者の需要に応じるためには、各地に創設された模範幼稚園で「保姆見習い」を置き、半年ないしは1年間の見習い期間を設定して保育者の養成を行なった。明治20年代に入ると、幼稚園の数は急増する。しかし、保育者の不足に対して政府は方策を講じなかった。そこで、東京府教育会などは半年間で幼稚園保姆を養成する開設して急場をしのいだが、しかしこれも明治20年代末には廃止された。湯川（2001）は、このような状況を、欧米の保育者養成と比較して「欧米の場合、保姆（Kindergartener）の養成は幼稚園教育の成否を握る鍵として重視されたが、日本では保姆の要請は幼稚園での保育見習方式による簡便なものにとどめられ、欧米に比較して保姆養成機関の整備は著しく遅れた⁵⁾」と述べている。

3. キリスト教系保育者養成機関の動向

わが国におけるキリスト教系保育者養成機関の最初のもものとされるのは、1884（明治17）年に創設された桜井女学校幼稚保育科である。同科は、1889（明治22）年に、A.L.ハウが頌栄保姆伝習所を開設するまで、唯一のキリスト教系保育者養成機関であった。

下表2にあるように、キリスト教系保育者養成機関には、頌栄保姆伝習所、広島女学校保姆師範科か、柳城保姆養成所など、伝習所、養成所という保育者養成単独の機関と、女学校の付属機関として設置されたものがある。

表2 キリスト教系保育者養成期間の一覧（大正末期まで）⁶

設立年	名称（所在地）	養成年限
1884年	桜井女学校幼稚保育科（東京）	1年
1889年	頌栄保姆伝習所（神戸）	2年
1895年	広島女学校保姆師範科（広島） （のちランバス女学院保育専修部（大阪））	2～3年
1898年	柳城保姆伝習所（名古屋）	2～3年
1902年	東京保姆伝習所（東京）	2年
1905年	活水女学校幼稚園師範科（長崎） （のちランバス女学院保育専修部）	2年
1906年	梅花幼稚園保姆伝習所（上田） （のち東洋詠歌女学校幼稚園師範科）	2年
1913年	青葉女学院保姆科（仙台）	2年
1916年	玉成保姆養成所（東京）	1年
1919年	東洋英和女学校幼稚園師範科（東京）	2年
1921年	平安女学院高等科保姆部（京都）	2年
1923年	大宮愛仕母学会（大宮）	3年
1925年	東京保育女学院（東京） （のち東洋英和女学校幼稚園師範科）	2年

キリスト教系保育者養成機関の特徴は、婦人宣教師やその弟子が保育者養成を行なっていたことである。加えて、養成期間が基本的にアメリカの幼稚園教員養成方式に従った2年制であることが特徴である。

1889（明治22）年にA.L.ハウ（Annie Lyon Howe, 1852-1943）が設立した頌栄保姆伝習所は、1894（明治26）年9月からは2年制の高等科も設け、保育者の養成を行う教員の養成も開始した。この同伝習所の学科内容やその課程は、キリスト教系の保育者養成機関のモデルとなったと言われている。以下に示すのが、頌栄保姆伝習所学科課程である。

表3 頌栄保姆伝習所学科課程⁷

	普通科 1年	毎週 時数	普通科 2年	毎週 時数	高等科 1年	毎週 時数	高等科 2年	毎週 時数
修身		六		六		六		六
教育学			原理、応用、幼稚園原則法等	二		二		
心理学	普通心及心理学	二						二
理科	動物、植物、生理	四	鉱物、生理、衛生	四	動物、植物、生理	四	鉱物、生理、衛生	四
保育学	理論	二		二		二		二
	応用	二		二		二		二
	実習	十		十		十		十
唱歌		四		四		四		四
音楽		七		七		七		七
作文	書牘文体及文	一	同	一	書牘文体及文	一		一

上述のように、科目は、「修身」「教育学」「心理学」「理科」「保育学」「唱歌」「音楽」「作文」の8科目であった。それぞれの要旨は以下の通りである。

- | | |
|-------|---|
| 一、修身 | 人倫ノ大道ヲ講述シ之ヲ躬行セシムルヲ期ス |
| 教育学 | 教育ノ原理応用ノ大要幼稚園ノ原則及編制幼児管理等ノ要件ヲ授ク |
| 心理学 | 其大綱ヲ授ケ且実施ニ幼児心性ノ作用ヲ観察研究セシメ幼児教育ノ基礎ヲ得セシム |
| 一、理科 | 動植物礦物生理衛生等ノ大要ヲ講述シ之ヲ兒童ニ教ユルノ方法ヲ授ク |
| 一、保育法 | 之ヲ二ツニ分ツ一ハ保育ノ方法ヲ講述シ且ツ実地頌栄幼稚園ノ幼児ニ付キ保育ノ模範ヲ示シ之ヲ熟練セシメ一ハ恩物用法ニして恩物の性質功要ヲ説明シ其用法ニ熟達セシムル者トス |

- | |
|---------------------------------|
| 一．唱歌 正確優美ニシテ幼児ノ心情ヲ和スルモノヲ撰ミテ之ヲ授ク |
| 一．音楽 楽器ノ使用ニ習熟セシム |
| 一．作文 書牘及近体文ニ習熟セシム |

図 1：頌栄保姆伝習所学科課程要旨

頌栄保姆伝習所では、フレーベルの教育哲学とその根源にあるキリスト教を把握することとで、キリスト教は「修身」という学科目の中で新訳・旧約聖書が週 6 時間教えられた。また音楽に力を入れ、多くの時間をかけていたことも注目できる⁸。

さらに、ハウは、フレーベルの主要著作の多くを翻訳した。ハウが翻訳した教科書に関しては、永井（2016）の研究に詳しい⁹。キリスト教系ではない保育者養成機関や幼稚園では、教科書として関信三訳『幼稚園記』『幼稚園法二十遊嬉』が主に活用されていたことを鑑みても、ほとんど恩物と手技の技術的なものに終始している（傍点筆者）¹⁰。フレーベルの哲学、幼稚園教育の根本となる教育思想、宗教思想については全く触れられていないのである。

それに対して、キリスト教系の保育者養成機関や幼稚園では、恩物の技術的な面にとどまらず、フレーベルの教育哲学、教育思想が紹介された¹¹。ハウは、フレーベル精神の普及に全力を傾注したわが国保育界の功労者であったが、同時に、フレーベル精神とキリスト教精神を身につけた、多くの優秀な保姆を養成した。明治 20 年代末から 30 年代初めには、頌栄保姆養成所に倣った 2 年制のキリスト教主義保姆養成機関が、広島及び名古屋（＝柳城）にも開設され、いずれも各地域の保姆の需要に応えた¹²。

4. 幼稚園令公布以前の柳城の保育者養成と幼稚園

1899（明治 32）年に、名古屋市東区白壁町でマーガレット・M・ヤング（以下、ヤングと表記）が 9 名の園児を迎えて、柳城幼稚園を開設した。同幼稚園の開園に先立ち、ヤングはその前年である 1898（明治 31）年より保姆として養成していた杉浦いね¹³を伴い、頌栄保姆伝習所や広島女学校幼稚園師範科へゆき、幼稚園の実際を見学し、保育に必要なオルガン其の他の用具を調べ、大阪にてそれらを調達し、幼稚園を開始するに至った¹⁴。

ヤングは、カナダ聖公会派遣の宣教師であった。彼女はカナダ・オンタリオ州立のハミルトン師範学校保姆科を卒業後、5 年間エールマ市の最初の公立学校の幼稚園部門の責任者として幼児教育を任された。カナダには、米国を経由して幼稚園制度が移入されたが、オンタリオ州がどの州よりも早くに幼稚園制度を取り入れた。1885（明治 18）年にオンタリオ州では幼稚園が承認された。オンタリオ州では、1900 年までに 166 の幼稚園が設

立され、11,000人以上の子どもが通園していた。

ヤングは、前述の通り 1898（明治 31）年から、保育者の養成を行なっていた。ヤングの保育観は、フレーベルの思想と理論を具現化したものであった。フレーベルは幼稚園（＝キンダーガルテン）においては、養成所と幼稚園とは一体であった。フレーベルはキンダーガルテンそのものを、子どもとおとな両者の教育の場と考えた。1899（明治 31）年に柳城幼稚園の事業が開始されることにより、実習の便宜が与えられた¹⁵ことは、ヤングは、フレーベルの考える「幼稚園においては養成所と幼稚園が一体である」ことを具現化したといえる。養成初期には、修業年限は3年間として毎年1名の入学を許可していたが、のちに学則を設けて3名に増加した。

1910（明治 43）年になると「柳城保姆伝習所」と命名し、寄宿舍を附設し、数名の生徒を収容し、保姆を養成することにした。ヤングは、柳城幼稚園の敷地内に教師の家、学生宿舍、教室、講堂、手伝いの人の部屋など基本的に全ては一緒にあることが当然と考え、その事業を運営していた。教師も学生も、また親もそこに集う子どもを見て共に過ごすことができるという理想的な姿がそこにあった。

1919（大正 8）年に再び学則を改正し、修業年限は2年間となった。ヤングは 1922（大正 11）年に母国カナダへ帰国し、次期校長の N. ボーマンへ事業を継承した。1924（大正 13）年には収容定員を20人とし、同年9月には愛知県知事の認可を受け、「柳城保姆養成所」と改称することになった。1927（昭和 2）年には、同養成所は無試験検定保姆免許状を交付できる保育者養成機関となった¹⁶。

柳城の当時の保育者養成は、幼稚園に必要な人数を順次養成していた。基本的にはマンツーマンの教育であった。ヤングが柳城を去るまでの養成人数は、1898（明治 31）年～1922（大正 11）年の24年間でわずか28人であった。毎年必ず入学者を募集するわけではなく、必要に応じて、もしくは入学希望者がいた場合に養成を行なっていた。このような贅沢な保育者養成ができたのは、カナダミッションという背景があったからともいわれる¹⁷。

5. 大正期から昭和初期の保育者養成—柳城生たちの奮闘—

1926（大正 15）年の「幼稚園令」の公布により、幼児教育界はにわかに活気付き、幼稚園は急増していった。そのために保育者の養成が急がれたのである。ところが政府は、養成に関して「一年以上の幼児保育に関する教育」を行うべきことを規定した以外、施設の

基準も学科目に関する基準等何も示さず、また積極的な保育者養成振興策を何ら講じることもなかった。大正 15 年における養成機関は、14 校に過ぎなかったが、昭和に入ってから 15 年間の間に 23 校が新設された（うち公立は千葉女子師範保母養成科 1 校のみ）。修業年限は、幼稚園令の規定により、みな 1 年以上となったが、キリスト教系の保育者養成期間のほとんどは 2 年制を採用した。教育内容については、以前より何らの法的規制もなかったもので、それぞれ独自の学科目を教授していたが、多くの施設では、修身・体操・図画・音楽・手工・理科といった、小学校教科目ならびに教育学・心理学・保健衛生・談話・栄養学・園芸・育児法等が教えられていた。キリスト教関係施設では、これらの他に宗教教育、聖書、宗教哲学などが加えられていた。また保育実習は、いずれの施設も力を入れ、付属幼稚園あるいは他の幼稚園・託児所で長期にわたり週 10 ないし 15 時間、実施するところが大多数であった。官立の 2 校（東京及び奈良女高師）を除いては全て保母の無試験検定を受けることができることを前提として設けられた各種学校に過ぎなかった。保母免許状の無試験検定については、1926（大正 15）年の「幼稚園令施行規則」第十条で、以下のように定められていた。

第十条	左ノ各号ノ一ニ該当スル者ハ保母ノ無試験検定ヲ受クルコトヲ得
一	小学校ノ本科正教員ノ免許状ヲ有スル者
二	高等女学校ヲ卒業シタル者又ハ専門学校入学者検定規定ニ依リ試験検定ニ合格シタル若者ハ一般ノ専門学校入学ニ関シ無試験検定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ合格又ハ卒業後一年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ従事シタル者
三	専門学校入学資格ヲ以テ入学資格トスル学校ニ於テ <u>一年以上幼児ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者（下線筆者）</u>
四	従前ノ規定ニ依リ保母免許状ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ従事シタル者
五	其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適当ト認メタル者

図 2：1926（大正 15）年の「幼稚園令施行規則」第十条

前述した通り、柳城では 1898（明治 31）年からヤングによって保育者養成が行われていた。1922（大正 11）年になると、ヤングは退職の年齢を迎えた。代わってノラ・ボーマンが柳城保母伝習所の校長となった。ボーマンは、見識が高く、リーダーシップと管理運営能力を有した人物であったと評されている¹⁸。学生数が増加し、また制服を導入したことが記録にある¹⁹。

1926（大正 15）年に入学した近藤八重子が在籍した当時の柳城保母養成所の学科課程は以下のものであったとの記録を残している²⁰。

表4：1926（大正15）年の柳城保姆養成所の学科課程

学科目	午前 (1年生)	午後 (1・2年合同)	毎週時数
キリスト教倫理		○	1
教育学	○		1
心理学	○		1
保育学※	○ (週2日実習)		1、2年(週1:理論) 2年生は午前毎日実習
理科	○		1
国語	○		1
体操		○	1
音楽	○		個人レッスン後、 指導検定
声楽		○	1
手芸	○		1
図画		○	2
聖書		○	1
聖話	○		1
遊戯・リズム		○	幼稚園の保姆も参加する

※保育学は理論、応用、実習を含み、恩物・マザープレイが中心。

2年生は、毎日午前中は付属幼稚園（当時は4園あった）で実習をして、午後には養成所に戻り、午後からは1、2年生が合同で各種の学科目を学習していた。理論書としてハウが訳した『母の遊戯及び育児歌』が活用されていた²¹。近藤によれば、ピアノの練習は寄宿舎に帰ってから独学でやるが多かったようであり、手技としての「切り紙」「折り紙」の製作も寄宿舎で連日仕上げていたとのことである。いわば24時間が保姆養成であったと言っても良い²²。

加えて、近藤と同年に柳城に入学し、1965（昭和40）年に柳城女子短期大学の学長となった坂東喜久は、1955（昭和30）年に発行された柳城新聞委員会の発行する機関紙「柳城」²³の中で自身の経験について以下のように述べている。

（略）私が初めて行った実習園は巾下分園であった。（略）唱歌、音楽の時間と云うと頭痛がした私は実習から帰ると頭が痛かった。音楽の不得手な私はミドミソソと習うマーチも苦手の一つであった。（略）恩物、母の遊戯、手技、童話、先生方の云われる事、又なさる事も、見たり聞いたりしていると、段々理解するどころか之は大変なところに飛び込んだという様になって、子供好きの私も重荷の他何も得られなかった。たみ紙、切紙、美麗式、織紙、図画。

紙を切っては並べ切っては貼る、眺めてたんそく（＝嘆息、筆者変換）する。身体の大きいボーマ

ン先生がたゞ紙を指導されたら、日本の方等は器用だが自分の指は太くてよくできないと云って励まして下さるが手が小さくても決して器用ではない自分は云訳もない。(略) 実に忙しい。そのうち見るもの聞くもの皆興味が深くなって来た。二年目になると先生と呼ばれてもそれは自分の事だと思ふ程落ち着いていた。(以下略)

このように後の学長であっても、当時の保育学生としては戸惑いがあったことが感じ取れる。手技の宿題に奮闘していることも読み取れる。

さらに、1931（昭和 6）年に柳城へ入学した野中芳子は、以下のような記録を残している²⁴。

6:00	起床 炊事当番は 30 分ぐらい早く起きて朝食準備を行う。
6:30	朝食
7:20	朝の礼拝 通学生もこの時間までに登校する。付属幼稚園の教員も含めて全員が礼拝室で礼拝を行う。2 年生がオルガンを弾く。30 分間ほど礼拝を行う。
8:00 ごろ	各実習園へ行く。礼拝が終わると 2 年生は付属幼稚園へ実習に行く。 (1 年生は週 2 日実習、週 3 日は学校で授業を受ける) * 2 年生の実習は 2 人組になって幼稚園教員の指導のもとでクラスに入り保育を行う。
午後	実習園から急いで学校へ戻る。午後の講義は 17:00 まで。
18:00	夕食 通学生は自宅へ戻る。寄宿生の炊事当番は食事の準備を行う。それ以外の寄宿生は夕食時間までは自由時間である。ピアノの練習をしたり、買い物に行ったりする。夕食後には夕べの礼拝を行う。
21:00	自由時間
22:00	消灯

図 3：ポーマン校長時代の学生生活（野中芳子(1982) 11～12 頁より筆者作成）

6. ポーマンによる保育者養成

6.1. JKU 年次報告書にある「柳城」

上述の野中が柳城の学生であった同時期に、ポーマンが JKU に柳城の保育者養成についての手記を残している²⁵。以下にそれらを示し、検討してみたい。

JKU (Japan Kindergarten Union) は、現在のキリスト教保育連盟の前身であり、1906（明治 39）年に日本に初めて組織されたキリスト教保育の連絡・研究機関である。初代会長はハウである。ポーマンは 1929（昭和 4）～1930（昭和 5）年にかけて同連盟の会長の任についた。

1930（昭和 5）年にポーマンは、RYUJO KINDERGARTEN TRAINING SCHOOL,

NAGOYA と題したものに、以下の小見出しを付して、柳城保姆養成所の紹介を行っている²⁶。

- History of School (学校の歴史)
- Dormitory Life (寮生活)
- Relation of Teachers and Students (教師と学生との関係)
- Curriculum (カリキュラム)
- Physical Exercises and Health Training (体の運動と健康)
- Religious Training (宗教的な訓練)
- Evangelistic Work (宣教の働き)
- Practice Work (実習活動)
- Demonstration Schools(附属幼稚園)
- Contact with Homes(学生の家との連携)
- Ryujo Camp(柳城キャンプ)

上述の小見出しの内容を要約しながら検討していくこととする。

Dormitory Life(寮生活)については、校長自ら寮監(Head of the Hostel)を務めていることが記されている。1年生と2年生が部屋を共有していた。

Curriculum(カリキュラム)については、以下のように列挙されている。Kindergarten Principles and Practice(保育原理)、Practice(実習)、Program and Program Making(年間計画とその作成)、Mother Play(マザープレイ、母の遊戯)、Froebelian Gifts and Occupations, adapted to Japanese Child-life(フレーベルの恩物と手技、それらの日本の子どもに対する適応)、Child Study in Theory and Practical examples, showing methods of application(保育学：理論と実践)、Child Psychology(幼児心理学)、General Psychology(一般心理学)、Education and Educational Reformers(教育学と教育改革者たち)、Japanese Language and Literature(日本語と日本文学)、Kindergarten Songs and Games(幼稚園の歌と遊び)、Old and New Testament and Prayer Book(聖書と祈祷書)、Christian Ethics(キリスト教倫理)、Theory and Practice in Storytelling (Bible and Otherwise)(素話の理論と実際(聖書他))、Part Singing(合唱)、Drawing and Painting(図画)、Gymnastics(体育)、Rhythms(リズム)。

カリキュラムについては、恩物だけではなく、マザープレイも導入していること、キリスト教に関連する教科目が重視されていることがわかる。

Physical Exercises and Health Training (体の運動と健康)については、週に1回は幼稚園の教師たちと柳城生と一緒に幼稚園で使われる遊び(games)を学び実施するに一緒にやることが描かれている。さらに、2年生は、後期に毎週、医師から体育の時間に School and Social Hygeine (学校と公衆衛生)、Methods of caring for Children(子どもの介護法)、First Aid(応急処置)、General Health Laws(健康法全般)について学んでいると記述されている。

Practice Work (実習活動)については、ポーマンは「実習時間は学生生活の中で、事情に重要な位置を占めています」と述べ、実習の重要性を説いた。

1年次の実習は以下のようなシステムで実施されていた。

- ・週に2度幼稚園に半日（午前中）実習へ行く。
- ・2週間に一度検討のための時間が設けられていて実習担当教員に実習計画を提出する。
- ・柳城生が実習を行わないときは、教員の保育や遊びながら子どもたちの様子を観察する。
- ・学期ごとに異なった（付属）幼稚園へ実習に行く。

これら4点から、昭和初期から柳城では1年次から非常に戦略的な実習指導が行われていたことがわかる。しっかり指導案を立案できる保育者の養成が目指されていたことがわかる。さらに、多様な幼稚園に派遣されることによって、いろんな保育を体験できることも柳城の保育者養成の特徴と言える。

2年次の実習は以下のように進められる。

- ・学生が2人組となり1つのクラスを任される。
- ・計画を立案し、養成校の教員に検討してもらう
- ・担当したクラスの壁面構成も任される
- ・前期は年長クラスで実習を行い、その後年少クラスに移る。
- ・お話(story-hour)を任されることもある
- ・後期は、全日実習を行う、最終的には1週間分の指導案を提出する。

このように、2年次には1年次よりも難易度の高い実習が計画されている。恩物に偏重しない、実践的な保育者養成が行われていたことがわかる。

さらに、ポーマンは、付属幼稚園（この当時柳城には4つの付属幼稚園があった）で学生を実習させる意義について、Demonstration Schools(付属幼稚園)の中で自身の考えを次のように述べている。

4つの園は、保育方針は同一ではあるが、保育展開は多様である。それぞれの幼稚園には多様な

層の子どもたちがいる。社会を代表する多様な層の健康面や性格面を学生は観察することができる機会が与えられています。さらにそれぞれの付属園で、保姆たちは実習生(students-in-training)をサポートしていきます。

このように、ボーマンは、養成校が複数の付属園を持つことの意義を述べている。さらに、養成校と付属園（＝保育現場）がお互いに協力し合うことで、実習生が成長していくことも明らかにしている。また、Contact with Homes(学生の家庭との連携)では、修業年限についての記述があり、保育に関するより一層の研究に向けて教育課程を3年間にすべきとの考えを述べている。当時のわが国の規定では、修業年限は1年間とされていた時期に、ボーマンは幼児教育の重要性を名古屋の地から積極的に発信していたことがわかる。

6.2. 『幼児の教育』にみるボーマンの保育者養成観

ボーマンは、1938（昭和13）に『幼児の教育』において、全国の11人の専門家による提言者の1人として倉橋惣三、森川正雄らと並んで「保育養成所の問題」と題して寄稿を行なっている²⁷。ボーマンの寄稿は、「一、実習の大切」、「一、考案力、創作力、研究心を養ふ」、「一、宗教的敬虔と知識の滋養」からなる。実習について、ボーマンは「理



図4 『幼児の教育』表紙

図5 『幼児の教育』の目次

解に困難な抽象的な教授法を講義するよりも、出来るだけ早く（本校においては1年生より）生徒に実地に当たらせて居ります。実習生として生徒は予め教授法管理法の計画書を提出させ教師はよくその実際を見て、後に生徒と共に失敗成功について愛をもつて批判し、又発表させて向上進歩につとめています」と記述している。この頃は先日したJKU年次報告書へ報告した内容と同じである。文章の冒頭にある文章は、とりあえずまずは実習に

行ってみる（傍点筆者）と考えることができ、実践力を重視していることがわかる。

次に、付属園に「善き保母を備えておくこと」の重要性について述べている。ボーマンは「信仰経験、知識に富む善き保母を備えて、彼等の子どもに対する日々の凡てを目の当たりに見ることにより、子どもに対して興味、子どもに世界、子どもの人格の尊重または保育法についてもよき知識と経験を与えられる」としている。つまり、ボーマンは、保育者を養成するためには、付属園に良い保育者を配置しておくことが必要であると考えた。さらに、実習生には、実習園の保育者の保育を参考にして、実習生自らで保育案を立案する課題も求めた。加えて、「一、考案力、創作力、研究心を養ふ事」では、女学校の詰め込み主義に対して、「十分に考案させる事、創作させる事、物事に対して真剣な態度を以って研究させることが少なく、その力は乏しいやうに感じられ、廃物利用などにいろいろ独創的な試みをいたしております」と述べ、当時の日本の中等教育に対して批判的な態度を示した。さらに続けて実習の際には、「科学的知識に基づきて自然界の全てに（天体、昆虫草木石）親しみの心をもたせ、その中に入り子どもの興味と一致を測りつつ」、学生に自発的に研究・発表させるような実習指導を行っていた。

7. おわりに

本稿では、まず官立の東京女子師範学校保母練習科の教育課程と、その後設立された A. L. ハウによって設立されたキリスト教系保育者養成機関である頌栄保母伝習所の教育課程の比較検討を行なった。この検討の中で官立の保母練習科は恩物の取扱い方法を重視した養成方法であることが明らかとなった。それに対して頌栄保母伝習所は、恩物の取扱だけではなく、フレーベルの哲学までをしっかりと学ばせるように、恩物だけではなく、『母の遊戯及び育児歌』も活用されていたことが明らかとなった。それ以後、キリスト教系の保育者養成機関では、頌栄保母伝習所の教育方法を参考していることが明らかとなった。さらに本稿では、これまでの研究ではあまり注目されてこなかったキリスト教系保育者養成機関である柳城保母養成所の保育者養成の実態と特質に注目して分析してきた。ヤングによって柳城保母伝習所として始められた柳城保母養成所は、ボーマンが校長に着任したときに充実期を迎えた。ボーマンは、寄宿舎制によるキリスト教主義の保育者養成を重視した。なかでも実習指導に対して、付属園の活用方法や養成校と実習園との連携など、かなり体系的な教育方法を取り入れていることが明らかとなった。

なお、今後は本稿において分析しきれなかった柳城保母養成所と付属園以外の機関（例

えば、他の幼稚園や外部機関など）との関連について考察し、昭和初期における名古屋の保育者養成の様相について明らかにしていきたい。

【註】

- 1 永井優美(2016)『近代日本保育者養成史の研究—キリスト教系保姆養成機関を中心に—』風間書房、15 頁。
- 2 湯川嘉津美(2019)「指定討論 日本の幼児教育におけるキリスト教主義幼稚園・保姆養成校の歴史的位罫」、『幼児教育史研究』、第 14 号、幼児教育史学会、69 頁。
- 3 湯川嘉津美(2001)『日本幼稚園成立史の研究』、風間書房、236 頁。
- 4 水野浩志(1983)「戦前の保育者養成の歴史」、水野浩志・久保いと・民秋言編著(2014)『保育者と保育者養成』(戦後保育 50 年史第 3 卷)、日本図書センター、24 頁。
- 5 湯川嘉津美(2001)、前掲書、240 頁。
- 6 永井優美(2016)、前掲書、34 頁。
- 7 永井優美(2016)、前掲書、140 頁。
- 8 キリスト教保育連盟百年史編纂委員会(1986)『日本キリスト教保育百年史』、キリスト教保育連盟、64 頁。
- 9 永井優美(2016)、前掲書、141～150 頁。
- 10 津守真・久保いと・本田和子(1959)『幼稚園の歴史』、恒星社厚生閣、219 頁。
- 11 同上。
- 12 水野浩志(1983)、前掲書、25 頁。
- 13 杉浦いねは、1879(明治 12)年、愛知県三河国幡豆郡に誕生した。家族や親族は熱心なキリスト教徒であった。ヤングは、1896(明治 29)年に金城女学校を卒業したばかりのいねを自身の日本語の教師とした。[柳城学院 120 年史編集委員会(2019)『柳城学院百二十周年記念誌』4 頁]
- 14 キリスト教保育連盟百年史編纂委員会(1986)、前掲書、135 頁。
- 15 柳城保姆養成所(1939)、前掲書、4 頁。
- 16 柳城保姆養成所(1939)、前掲書、5 頁。
- 17 柳城学院百年史編纂委員会(2004)『柳城学院百年史』、59 頁
- 18 柳城学院百年史編纂委員会(2004)前掲書、79 頁。
- 19 同上。
- 20 武藤文夫(1980)「近藤八重子教授古稀を祝して—学生時代を中心として—大正 15 年頃の保姆養成—」、『柳城女子短期大学紀要』第 2 号、12～13 頁。
- 21 武藤文夫(1980)、前掲書、13 頁。
- 22 同上。

²³ 柳城新聞委員会(1955)「柳城」第二号。

²⁴ 野中芳子(1982)「柳城創立 85 周年を迎えて その歴史を考える」、『柳城女子短期大学紀要』第 4 号、11～12 頁。

²⁵ 尾上明子・菊地伸二 (2000)「JKU 年次報告書に見る「柳城」」、『名古屋柳城短期大学研究紀要』第 22 号、190～197 頁。

²⁶ 尾上明子・菊地伸二 (2000)、前掲書、190～192 頁。

²⁷ エヌ・ボーマン (1938)「保姆養成に当りて」、『幼児の教育』第 38 巻第 5 号、日本幼稚園協会、5～8 頁。

要旨

A Historical Study of the Kindergarten Teacher Training Schools
in the Early Showa Era:
Focusing on Rrujo Kindergarten Training School, Nagoya

Kayo AOYAMA^{*2}

本稿では、まず官立の東京女子師範学校保姆練習科の教育課程と、その後設立された A. L. ハウによって設立されたキリスト教系保育者養成機関である頌栄保姆伝習所の教育課程の比較検討を行なった。この検討の中で官立の保姆練習科は恩物の取扱い方法を重視した養成方法であることが明らかとなった。それに対して頌栄保姆伝習所は、恩物の取扱だけではなく、フレーベルの哲学までをしっかりと学ばせるように、恩物だけではなく、『母の遊戯及び育児歌』も活用されていたことが明らかとなった。それ以後、キリスト教系の保育者養成機関では、頌栄保姆伝習所の教育方法を参考していることが明らかとなった。さらに本稿では、これまでの研究ではあまり注目されてこなかったキリスト教系保育者養成機関である柳城保姆養成所の保育者養成の実態と特質に注目して分析してきた。ヤングによって柳城保姆伝習所として始められた柳城保姆養成所は、ボーマンが校長に着任したときに充実期を迎えた。ボーマンは、寄宿舎制によるキリスト教主義の保育者養成を重視した。なかでも実習指導に対して、付属園の活用方法や養成校と実習園との連携など、かなり体系的な教育方法を取り入れていることが明らかとなった。

キーワード; 保育者養成史 キリスト教系保育者養成 実習指導

^{*2} Nagoya Ryujo Women's University